

あかるいまち21

No.1327 2020年6月15日組合員活動推進課 082-532-

	6月	2020年度
組合員ふやし	46人	211人
出資金ふやし	475万円	2507万円
純増	299万円	1310万円

「コロナ禍で矛盾あられる地域医療構想を斬る！」 国の政策の矛盾を学んだ学習会！

6月11日（木）藤原理事長を講師に、学習会を行いました。コロナ対策で、会場を二部屋取り、机や椅子の間隔も取り、参加者は手指消毒、マスク着用も徹底しての学習会でした。



「コロナ」の感染拡大により医療崩壊が危ぶまれる中、国は公的病院のベッド削減をしようとしており、国の政策的な矛盾があきらかにされました。参加者からは、「医療がだんだんいじめにあっていくみたいで年寄りとはとても困ります。（84歳女性）」「地域医療構想の問題について、コロナの非常事態だからこそ見えやすくなっているのだと実感しました。医療体制の再構築によって、国民が苦しむことになってしまうのだと

よく分かりました。（23歳女性）」「とてもわかりやすい1時間でした。日々目まぐるしく変わっていくコロナ関連の状況に「今」の情報を知ること必死でしたが、わかりやすくまとめていただき、先生の見解も知ることができ、学びを深めることができました。広島県の無医地区が54あることに驚きましたが、北海道に次いで多いことに驚きました。コロナのような感染症や災害などの時、受け入れられない体制ではなく、対応ができていく医療体制を整えるべきだとあらためて思いました。（28歳女性）」など感想が寄せられました。

第33回すこやか会総会開催される

藤原先生の学習会の後、11：15から開催しました。例年はお弁当も楽しむ総会ですが、コロナ禍により時間も1時間以内で終了させようという事で、コンパクトな総会となりました。しかし、中身は中々に活発でした。

「普段は何げなく『すこやか会』って言っていますが、正式名称は『すこやかな老後をつくる会』という、非常に能動的・主体的な組織です」という目次さんの司会で始まりました。昨年亡くなった田中モモエさんへの黙祷を捧げた後、議長に隆杉晃さんを選出し、議事が進行しました。活動の報告は小西さんです。昨年一年間を振り返り、今年はメンバーの目次さんが3冊目の詩集を出版され、壺井繁治賞を受賞されたことを紹介されました。せっかくこのような貴重な仲間がいるのに、「活用しない手はないよ」という事で、目に見える活動の一環として、詩作でも俳句でもなんでも良いが、文化の薫り高い目に見える活動をしていこうと提案されました。こうした活動を通して、メンバーの高齢化に伴い会員拡大に難渋している状況を突破しようという気概あふれる総会となりました。ちなみに33年前にすこやか会の創立に尽力してきた中心メンバーは、必ずしも高齢者だった訳ではありません。50代から60代が中心でした。この記事をご覧のお若い方。ぜひあなたもすこやかな老後をつくる会にご参加下さい。

新しい運営委員10名を選出し、最後に、ふるさとを歌って（皆さんマスク着用して）予定通り1時間で終了しました。

